

令和2年度 医工連携研究会 ～デジタルヘルス時代の到来～

開催報告

令和2年11月9日（月）オンラインにて、医工連携研究会を開催いたしました。ものづくり企業、製販企業、臨床機関、研究機関、行政・支援機関などから、93名の方にご参加いただきました。お忙しいなかご参加いただき、ありがとうございました。

クラスター研究会

新型コロナウイルス感染症の拡大により、医療分野においてデジタル化が急速に進みました。3名の講師をお招きし、医療現場、アカデミア、行政の立場からデジタルヘルスに関する最新の動向をご講演いただきました。

講演「5G・ローカル5Gの取り組み」

総務省 総合通信基盤局 電波部移動通信課 課長補佐 大野誠司氏より、移動通信システムの進化の歴史、第5世代移動通信システム（5G）の利活用の可能性についてご講演いただきました。

基調講演「デジタルヘルス改革はどこまで新たな日常に対応できるか」

独立行政法人国立病院機構東京医療センター 名誉院長・厚生労働省 データヘルス改革推進本部 顧問 松本純夫氏より、これまでの遠隔医療の取り組み、コロナ禍により導入が進んだオンライン診療とその課題を中心にご講演いただきました。

特別講演「コロナ後の医療の『新常態』—ICTをどう使いこなすか」

京都大学大学院 医学研究科 医療情報学 教授 黒田知宏氏より、同大学 医学部附属病院における新型コロナウイルス感染症対策の取り組みを交えながら、情報化時代の医療の考え方、次世代医療基盤の全体像についてご講演いただきました。

講評

独立行政法人国立病院機構東京医療センター 名誉院長・厚生労働省 データヘルス改革推進本部 顧問 松本純夫氏より、ご講評をいただきました。

開会挨拶



進行 柏野聡彦



大野誠司氏



松本純夫氏



黒田知宏氏



★ご参加いただいた皆様からのご意見・ご感想★

- ・このような先端情報の企画を続けてほしい。
- ・黒田知宏先生の取り組みに注目していたので、内容には大変満足している。
- ・今回のように明確なテーマに関するセミナーを今後も実施してほしい。